

14. 東北地方多層民家の住生活

山形大教育 金子 幸子

1. 山形県東田川郡朝日村大字田麦俣は月山西斜面に当り、積雪量が非常に多く（最深積雪量5.15m）県下随一といわれる山村である。集落の大半は、かや葺3階建の層状家屋であり、多層民家として注目されているが、この特異な住居において営まれている住生活の実態を調査してその特質を把握し、住宅改善の資にしようとするものである。

2. 農家10戸を選び、夏季（8月）と冬季（1月）に現地に出かけ、踏査および面接法により住み方の調査を行った。また冬季調査期間中、座談会を開催し「住生活の現状と改善について」戸主や主婦、青年層の方達より意見を聴取した。

3. (1)この山村は摺鉢の底部のような地形であり、家屋以外の附属的建物（作業場や収納小屋）はほとんどない。家屋内の居住空間は1階のみで、2階以上は天井の高さも1.7m程度であり、物置きや作業場として使用している。従って収穫物や諸道具の運搬が非常に不便である。

(2) 交通機関の発達により、出羽三山行者の宿場であったこの山村に急激な生活の変化がおこり、養蚕業が行われるようになってから家屋の建て方が変って来たと考えられるが、山間避地と深雪地という自然的条件の強い制約が多層民家を形成させ、且つ住生活全般にわたって諸々の歪みを与えているものと見られる。